

私は今回初めて重度の障害を抱えた子供たちへの在宅医療を経験でき、非常に感銘を受けました。これまで高齢者の在宅医療に同行させていただく機会は多々ありましたが、今回小児の在宅医療を経て、在宅医療で非常に大切と思われるご家族の方々との関係性や医療従事者間の連携の重要性をこれまで以上に痛感致しました。

私自身、今回の在宅医療を経験するまでは、重症心身障害児に対する在宅医療は症状が悪くならないように経過を見守る医療だと正直思っておりました。決して一朝一夕に症状が改善するわけではなく、長期的な医療となることに非常にもどかしさを感じ、その現状に関してつらい思いがありました。しかしながら、今回ひばりクリニックで経験させていただいた重症心身障害児に対する在宅医療では、私が思い描いていた医療とは真逆であり、笑顔あふれる時間と人と人との温かみを多く感じることができました。ご自宅に訪問させていただいた際のご家族の方々の安心した表情や嬉しそうに迎えていただける感じ、それ以上に子供たちからの訪問を心待ちにしていたと伝わる明るい表情や瞳の輝きを強く感じられました。患者様である子供たちはもちろんのこと、その家族を含めて、みんなが安心できるような環境が作られているひばりクリニックの在宅医療の素晴らしさに、医師を志した時の純粋な気持ちを改めて思い返すことができました。

医師が医療をする上では、患者様との信頼関係はもとのこと、そのご家族、また支えてくださる看護師、介護士、その他医療従事者の方々との関係が非常に重要であることと存じます。しかしながら、これまでの医師生活を省みて私にはそのような大切さを理解していながら、それを体現できていないと改めて感じました。安心・安全・安楽（3A）の通り、安心・安全な医療は提供できたとしても、果たしてそれは安楽につながるのでしょうか、これまでを振り返ってみるとなかなかできていなかったように思います。今回在宅医療に同行させていただき、医療はもちろんのこと安心や安楽を提供することの大切さを感じ、自身の姿勢を見つめなおす必要があると思いました。今後外科を志す医師として患者様と関わる上で、入院、手術、軽快、退院という短期間での関わりが多くなると思います。また朝、夕の回診時も短い時間でのコミュニケーションとなり、今回学ばせていただいたような患者様、またそのご家族も含めたより深い信頼関係は築きにくく思われます。しかしその中で如何に患者様に、そしてご家族に安楽を提供でき、この先生で良かったと思われる医師になれるよう、短い時間の中でも信頼関係を作るきっかけを今回少しでも学ぶことができたのかなと思います。その一つとして、やはり笑顔でいることはどの場面でも重要であり、言葉や時間に依ることなく信頼、そして安心を得られる手段なのだと実感致しました。

今後の医師人生を歩んでいく中で、高橋院長を始め、ひばりクリニック、並びにうりずんの方々のように、笑顔絶やすことなく患者様、そしてご家族、多くの方々に接することができ、少しでも3Aを提供できるような医師になれるよう、日々心がけていけたらと思います。

最後になりますが、この度は大変お忙しい中、このような貴重な機会をいただきました、高橋院長を始め、ひばりクリニック、並びにうりずんの方々、そして患者様、並びに患者様のご家族へ感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

獨協医科大学病院 研修医 2年
須田 光太郎